

福島大学学生教育支援基金 令和2年度 成果報告

福島大学学生教育支援基金は、地域の再生復興を見据えながら、グローバル化が進展する社会で活躍できる「強い人材」の育成を目指し、学生が存分に勉学に励み、国際性を育み、社会的実践力を身につけることができるような教育環境を整備することを目的とし、学生支援や国際交流、学生教育環境整備事業等を支援します。

令和2年度は、同基金による支援事業として2事業を採択しました。本紙では、事業の内容をご案内するとともに、その成果をご報告いたします。ご寄附いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

令和2年度の実施事業にあたっては、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、適宜見直しを行いました。

また、感染発症国への渡航については、事態が鎮静化するまでの間、渡航の是非について自粛を含め再検討することとしています。

福島大学と海外協定校による双方向交流事業

国際交流センターでは、本基金を利用し、学生のグローバル意識啓発及びグローバル人材育成を目的とした海外協定校への学生派遣プログラム、及び海外協定校からの留学生受入プログラムの企画・実施を行っています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、新規派遣事業・受入事業の開始が困難となりましたが、グローバル人材を目指して、世界へ飛び立った学生の経験談や、最新の国際交流事業、留学生のキャンパスライフなどを、HPやリーフレットを通して、積極的にPRしました。

令和元年8月以降に1年間の予定で、交換留学を行っていた27名(11ヶ国・1地域・20大学)のうち多くの学生が、留学期間を短縮して帰国することとなりました。当基金により、これらの派遣学生への渡航費の一部補助を行いました。予定していた留学期間を短縮せざるを得なかったものの、各自が現地での学修や交流活動を通して、グローバル人材として成長して帰国することができました。派遣学生は、語学力の向上、異文化体験に加えて、国際的な感覚を磨き、現地で得た経験は各々の学生にとってかけがえのないものとなりました。帰国後も、7名が留学先でのオンライン授業を継続して受講し、予定していた科目の履修を完了させました。派遣学生の一人からは、「卒業後は、教員になりたいと考えている。自分が留学先で経験したことや、留学先の国の文化・魅力子どもたちに是非伝えたい。」といった感想が寄せられました。

受入事業においては、令和元年度より継続して在籍していた交換留学生16名が、自分たちが感じた福島をSNSで情報発信するとともに、福島の復興の様子や魅力を国内外で知ってもらうために、クラウドファンディング事業により、国内外からの支援を集めました。令和2年8月には、母国の状況や入国拒否措置情報を収集しながら、全員が無事に帰国しました。令和2年度後期から、本学では協定校とのオンライン交流を始めました。新型コロナウイルス感染症の影響により、海外派遣が難しい状況となりましたが、オンラインの手法も活用しながら、今後も、協定校との双方向交流を進め、本学学生が国際交流を通して、グローバル人材として成長することができるよう、実りある交流事業を継続していきます。



英国・グラスゴー大学への交換留学
現地の学生と共に日本を紹介するイベントに参加



研修旅行でこけし作り体験をする交換留学生
(左上: 留学生が作成した福島をPRするオリジナルキャラクター)

多文化体験による国際人育成プログラムの創出～ワークライフバランスを通して～

新型コロナウイルス感染拡大により、本事業の前提となる「海外複数国での学生による現地調査」の実施が今年度中は困難であったため、今後の世界的な感染状況等に注意を払いながら、次年度以降での事業実施を予定しています。